



東地中海地域ニュース

ヨルダン：シェイル・オイルによる発電所建設計画（5月1日付ヨルダン・タイムズ紙他）

1. 4月29日、エネルギー・鉱物資源省はエストニアのシェイル・オイルの企業 Easti Energy 社によるヨルダン初のシェイル・オイルによる発電所建設（direct incineration 方式により抽出）計画について F/S の結果を受け取った。
2. 本計画によれば、2015年に600～900メガワットの発電所を完成させ、重油及びガスをシェイル・オイルに置き換える。NEPCO(National Electricity Power Company)は、シェイル・オイルへの切り替えによってヨルダンはエネルギーにかかる費用を最低40～50%節約できる見込みを有している。
3. 現在、ヨルダンは国内の電力の80%をエジプトからの天然ガスにより、20%を重油によっている（エジプトからの天然ガスは、ヨルダン、シリアなどにつながるパイプラインにより供給され、ヨルダンはエジプトから優遇価格にて15年間ガスを購入）。
4. アフマッド・ハイアサット NEPCO 総裁は、何百年も利用可能くらいシェイル・オイルはヨルダンに埋蔵されており、本発電所建設計画は巨大な国家計画でありエネルギー供給における安定と安全をもたらすものであると述べた。
5. 他方、ヘル・ヒジャジーン NRA(National Resources Authority)長官がヨルダン・タイムズ紙に述べたところによると、シェイル・オイルから商業ベースの原油生産を行うには10～12年程度必要との見方を示している。
6. エストニアの企業による F/S の結果、少なくともシェイル・オイルの埋蔵量が多い全国20カ所の一つから一日36,000バレル以上の生産が可能であり、コストは60億米ドル程度と目される。
7. 同計画は、400億バレルとも試算されているシェイル・オイル開発が目的であり、企業との契約が成立すれば、政府は資金を確保する必要がない。